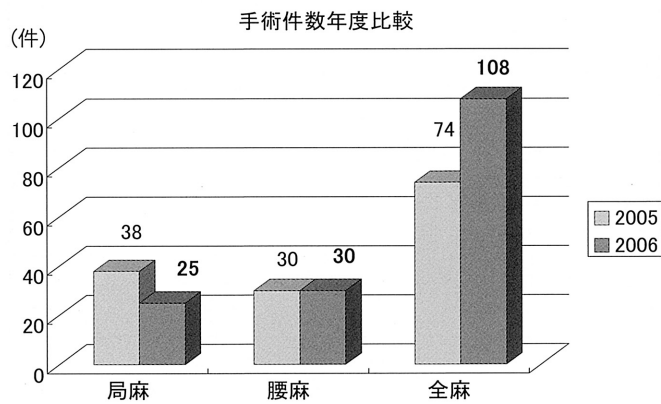


2006年度の外科スタッフは3名でスタートしたが、12月に1名退職し、1月以降は2名。

フルタイムの緊急手術対応は出来なかったが、可能な限り対応をし、緊急手術症例数は2005年度の12例に対し、2006年度は29例と倍増した。手術件数は141例に対し163例と微増した。内訳では局麻手術が13例減少し、全麻手術が34例増加した。大腸癌手術、腹腔鏡下胆嚢摘出術、虫垂炎手術が増加し、一方で乳癌手術は減少している。外来での乳癌の発見件数は、前年度とほぼ同数であったが、乳房温存手術の適応となる症例は、断端の術中迅速病理診断が可能な施設に紹介を行ったため、当院での手術数は1例にとどまった。



	2005			2006		
	局麻	腰麻	全麻	局麻	腰麻	全麻
甲 状 腺	0	0	1	0	0	2
体表の局麻手術	38	0	0	25	0	0
Auchincloss	0	0	7	0	0	1
胃 全 摘	0	0	2	0	0	4
胃 切 除	0	0	5	0	0	6
上部消化管穿孔	0	0	3(3)	0	0	2(2)
結腸切除術	0	0	7	0	0	14(3)
低位前方切除術	0	0	0	0	0	1
腹会陰式直腸切断	0	0	1	0	0	3
イ レ ウ ス	0	0	5(1)	0	0	7(3)
虫 垂 炎	0	2(2)	2(1)	0	9(8)	7(6)
痔 核	0	1	0	0	4	0
肝 切 除	0	0	0	0	0	2
開 腹 胆 摘	0	0	3	0	0	3(1)
腹腔鏡下胆嚢摘出術	0	0	19	0	0	40(6)
鼠径・大腿ヘルニア	0	21	3(1)	0	17	3
その他のヘルニア	0	0	4(1)	0	0	3
その他の手術	0	6	12(3)	0	0	10
合 計	38	30	74	25	30	108

()は緊急手術料